

令和5年度 第4回 富塚中学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和6年2月21日（水） 14時30分から15時30分まで
- 2 開催場所 富塚中学校 2階会議室
- 3 出席委員 島田 篤志、金原 圭吾、高須 博、遠藤 喜和、安間 忠雄、松澤 久仁美、
行森 瑞恵
- 4 欠席委員 井口 隆夫、加藤 宏史
- 5 学 校 中津川 貴一（校長）、松島 雄次郎（教頭）、深田 貴代（教務主任）、藤原 啓
子（CS担当教職員）、岩邊 三幸（CSディレクター）
- 6 教育委員会 鈴木 陽子（浜松市教育委員会総務課主任）
- 7 傍聴者 なし
- 8 会議録制作者 CSディレクター 岩邊 三幸

9 議長の選出

司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、会長から行森委員を推挙する旨の発言あり、全員異議なくこれを承認した。

10 協議事項

- （1） 学校関係者評価について
- （2） 次年度の学校運営基本方針について
- （3） 運営協議会自己評価について
- （4） 夢育やらまいかCS加算分の報告

11 会議記録

司会の松島から、委員総数9人のうち7人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

（1） 学校関係者評価について

議長の指示により、教務主任から、別紙資料に基づき学校関係者評価について説明があり、委員からは以下の発言があった。

- ・ 学校評価アンケートの生徒結果と、全国学調のアンケート結果とでは、相関はありますか。（高須委員）
 - ⇒ボランティアの項目では校内では数値が低い、全国学調の結果では高いことが見てとれる。学びにおいての項目では評価が同じものもある。（深田主任）
 - ⇒データの母体が異なっており、全国学調の方は3年生だけであり、校内の方は全校生徒のデータである。比較的多くの学校がそうだが、3年生のほうが色々な意味で意識が高いということは言える。段々と自分のことが見えてきたり、将来のことを考えたりとそういった点で考えると、本校の3年生は意識が高いということが言える。（校長）
- ・ 「つながる力」の項目で、「自分自身の悩みを相談できる相手がいる」の項目では、生徒の「そう思わない」という数値が教員、保護者と比べると比較的高いと見て取れるが、子供たちの声

が親や先生に聞こえてないようにも捉えられるのではないか。また、「自分の長所、得意なことを理解している」の項目では生徒と保護者間では文言が揃っているが、先生になると把握しているというより支援という言葉になっている。アンケートの意味合いが変わってくるのでは。

(安間委員)

⇒教職員は子供への理解はもちろんだが、それ以上に自分達が何をしているかという視点でのアンケートになっているので、文言についてはニュアンスが若干変わってくる。ただ、私自身も生徒版と保護者版で同じような項目でも、数値が若干違うと感じているところがあり、子供たちが本当は色々思っているが、学校や親には知られたくないということの気持ちの表れではないかという不安もある。そこをもう少し素直に引き出せるように考えていきたい。(校長)

- ・地域の行事や活動、ボランティア活動の参加項目で数値があまり高くないのは、なかなか地域に溶け込みにくいということなのではないでしょうか。(高須委員)

⇒協働センターのボランティア活動は年間通して数もあり、毎回多くの生徒が参加している。また、富塚中は環境に対する意識も高く、資源回収のプロジェクト、3年の社会参画やT・S活動も活動そのものがボランティアに繋がっているのだが、子ども達にとっては当たり前のことをしているという感覚で、ボランティアとしての意識がないのも数値が低い要因ではないかと思う。(藤原)

- ・学年別にみると、中学2年生の結果データが他学年に比べると総じて低いのは、この時期特有のものなのか。(金原委員)

⇒毎年このような傾向になる。発達段階というところと、その学年全体の雰囲気との両方だと思う。このような現状を踏まえ、2年生に如何にこの先を考えさせるか、そこに力を入れてやっていかなければならない。(校長)

- ・学校評価については富塚中独自のアンケート内容となっているのでしょうか。(島田委員)

⇒学校評価アンケートは他の中学校でもやっており、内容については各校独自のものになっている。本校が何年もやっている内容に、今年度は特にいじめに関して新たに項目を増やした。なかなか他の学校との比較はできないので、全国学調のアンケート結果の中で似たような内容の項目とで比較している。全国学調から見とれる数値が良いからと言って、悩んでいる子供がいけないというわけではないので、そこは見逃がさないようにしていきたい。(深田主任)

- ・生徒間のいじめだけでなく、生徒が先生に不快な思いをさせることもあると聞いた。昔と違い、今は子供への接し方も難しくなっている。子ども間だけではなく、多角的な視点から見ていけないといけないのではないか。(金原委員)

⇒令和3年から5年までのいじめと不登校の数値を調べましたが、毎年確実に減っている。今年度前半に生徒から先生への反発事例はありましたが、後半はないと認識している。ただ、その時に私たちがどう対応していくかを協議し、教員一人で抱え込まないよう教員同士で確認をしていきたい。(校長)

- ・この結果を踏まえて、地域として何ができるのかということを考えて、今後協議会でもこの内容を頭に入れながら、熟議していければと思う。(島田委員)

(2) 議長の指示により、校長から別紙資料に基づき次年度の学校運営基本方針についての説明があり、委員からは以下の発言があった。

- ・ 浜松市教育計画の包摂性という点では、ほとる学級の生徒の半分以上が部活動に参加しており普通に活動していることから、富塚中はすでに実践できているのではと思う。(金原委員)
- ・ 生徒訓の富中プライドは「当たり前のことを当たり前にする」とあるが、この精神が富中には根付いているので、今回のアンケート結果にも繋がっているのではないか。(島田委員)
- ・ I C Tの活用が進む中で、今問題になっているA Iについて対策はどうしているのか。(高須委員)

⇒今のところ具体的には活用していない。利便性を追求する面で、今後活用することが出てくるかもしれない。(校長)

(3) 議長の指示により、島田会長から別紙資料に基づき今年度の学校運営協議会の自己評価についての説明があり、今後も地域と学校が連携して協議していく旨を確認した。

(4) 司会から、今年度の夢育やらまいかC S加算分は、予定通り、内山絵里加さんの夢講話と未来授業に使わせて頂いたとの報告があった。

その他の連絡事項等

司会から、次回会議は、令和6年5月10日(金)午後2時30分から2階会議室で開催する旨の報告があった。